

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

追悼 教皇フランシスコ

貧しい人々を忘れないでください

深い悲しみに包まれながら、わたしたちは敬愛する教皇フランシスコのご逝去を悼みます。教皇フランシスコは、2013年から2025年にかけて、神の民の真の牧者として福音宣教にその身を捧げました。そのリーダーシップは単なる教会の統率にとどまらず、現代の課題に信仰と道徳の光をもたらし、広く世界の人々にも大きな影響を与えました。



2013年3月13日、教皇に選出された際、「貧しい人々を忘れないでください」という言葉を心に刻み、貧しい人々や自然を愛し、平和を求めたアッシジの聖フランシスコにちなんで「フランシスコ」という名を選ばれました。その名の通り、教皇は謙虚で質素なライフスタイルを貫き、貧しい人々や社会的な弱者や疎外された人々に深い共感を示し、その権利を擁護し、誰一人として排除しないという強いメッセージを発信し続けました。移民や難民など社会の周縁に置かれた人々に対する深い愛を示し続けられました。

また、教皇は、環境保護や気候変動問題にも積極的に取り組まれ、回勅「ラウダート・シ」を通じて、被造物の保護を訴えるとともに、環境、経

済、そして貧困問題が深く結びついていることを強調し、エコロジカルな回心を促し、持続可能な未来への共通の責任を呼びかけました。

2019年に訪日された際は、長崎、広島、東京において多くの方々とは出会う中で、世界に向けて核兵器廃絶による平和の確立と、すべてのいのちを守ることの重要性を力強く発信されました。

教皇フランシスコが掲げたシノドス的な共同体への変革のビジョンは、「出会いの文化」を基盤とし、宗教的、文化的、そして社会的な分断を乗り越えるための一致への呼びかけを貫かれました。ペトロの後継者として、最後まで教会を導かれた教皇フランシスコの遺産は、これからも永遠に受け継がれていくことでしょう。わたしたちは、教皇フランシスコに心からの感謝を捧げるとともに、永遠の安息を祈りましょう。

カトリック京都司教 パウロ 大塚喜直



2025年4月30日河原町教会にて行われた教皇フランシスコ追悼ミサには、およそ400人の方々が参列されました



教皇フランシスコの略歴と新教皇誕生の記事は8頁

6
2025

2024年度 カトリック京都司教区本部 決算報告

平素より、京都司教区のために、ご支援ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
さて、2024年（1月1日から12月31日まで）の京都司教区の宗教法人本部会計の決算について、主な点をご報告させていただきます。

教区本部会計について

当年度の決算は、収益計 694,389千円、費用計は 641,991千円でした。
当期税抜前正味財産増減額はプラス 52,398千円です。但し法人税額が 75,370千円かかりますので、税抜後の正味財産増減額はマイナス 22,972千円となります。

1. 経常収益について

- ①小教区からの納付金（A）～（D）は総額で 95,919千円でした。前年度より 7,519千円の減収です。
- ②収益事業収入は、河原町教会敷地内ホテル再建設に係る土地借地権者からの地代等や小教区の駐車場収益等で 407,389千円でした。

2. 経常費用について

- ①神学生養成費は通常の負担の他、4月以降は神学生1名の経費を計上しております。
- ②人件費は司教区職員1名の退職があったため、前年度に比べ 3,156千円の減額です。
- ③前年度に比べ維持管理費が 192,811千円増額、事務管理費が 20,822千円増額です。どちらも司教区新事務所建築・移転にかかった経費です。
この2つの経費は来年度は大幅に減額すると見込まれますが、会館の維持管理にかかる経費は今後もずっとかかります。

終わりに

2024年の収益は赤字決算となってしまいました。経常収支も大幅な赤字であり、地代収入によって補填しております。

しかしながら、世界の情勢を眺めるとき、わたしたちは単に教区の組織、体制護持という内向きなあり方に留まっていたはならないと強く感じさせられます。いのちの世界に奉仕するという、教会本来の福音宣教の使命に絶えず立ち返っていきたく希望しております。そのために教区において適正な運営がなされますように、皆様のお祈り、ご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

2025年6月1日
カトリック京都司教区
本部事務局 北村善朗

2024年度 カトリック京都司教区本部 決算報告書

自2024年1月1日 至2024年12月31日

(単位：千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
I 経常費用	542,027	I 経常収益	180,044
1 福音宣教活動費	50,182	1 司牧祭儀収入	9,561
祭儀費	680	司教司牧収入	1,516
教育養成費	1,593	司祭司牧収入	8,045
神学生養成費	6,635	2 納付金収入	95,919
諸委員会活動費	4,300	小教区納付金 (A)	27,796
教区事業活動費	34,775	小教区納付金 (B)	57,892
諸活動団体補助金	341	小教区納付金 (C)	9,202
済州交流費	569	小教区納付金 (D)	1,029
国際交流費	300	3 福音宣教協力金	649
会議費	830	4 特定献金収入	7,428
図書費	28	5 福音宣教企画室収入	28
諸会費	131	6 墓苑勘定収入	13,272
2 寄付金支出	610	墓苑使用料	5,620
3 特定献金支出	7,428	墓苑祭儀収入	7,545
4 管理費	352,189	(神の園) 使用料収入等	107
人件費	101,237	7 特別勘定収入	10,259
維持管理費	202,102	一粒会	8,915
事務管理費	48,850	済州基金	535
5 福音宣教企画室支出	374	アジア基金	365
6 墓苑勘定支出	9,026	国際協力基金	444
墓苑管理・整備費	8,926	8 その他の収入	42,928
(神の園) 管理祭儀費	100	建設分担金収入	31,976
7 減価償却費	122,218	一般寄付金収入	6,465
		雑収入	1,955
		受取利息 (預金)	2,532
II 経常外費用	5,721	II 経常外収益	106,956
固定資産売却損	0	固定資産売却益	68,224
固定資産除去損	0	墓苑積立金取崩益	0
特別積立金繰越し	0	投資有価証券償還益	0
投資有価証券償還損	5,721	受取利息 (投資)	38,732
雑損失	0		
III その他費用	94,243	III その他収益	407,389
収益事業費用	94,243	収益事業収入	407,389
福音宣教基金繰入	0		
費用総合計	641,991	収益総合計	694,389
税抜前当期正味財産増減額	52,398		
法人税額	75,370		
税抜後当期正味財産増減額	-22,972		
合 計	694,389	合 計	694,389



アロイジオ 花井 拓夫師
ステファノ 瀧野 正三郎師
感謝ミサ

司祭叙階60周年
司祭叙階50周年

3月20日 河原町教会



60年の司祭生活、
自由にさせていただきました。
感謝です。

司祭叙階60周年のダイヤモンド祝を迎えられた花井拓夫神父さまは、河原町教会で行われたお祝いのおミサには出席されませんでした。

1932（昭和7）年生まれの花井神父さまは、今年5月のお誕生日で93歳になりました。2022年90歳で現役を引退されてからも高野教会の司祭館で一人暮らしをしておられましたが、今年4月より教区内の施設に移られ、お元気になっておられます。

60年の司祭生活を振り返ってのご感想をお聞きしましたら、上記の短いお答えが返ってきました。

花井神父さまのご健康のため、どうぞお祈りください。



2025年3月 高野教会にて撮影

司祭叙階50周年を迎えて

ステファノ 瀧野 正三郎

1975年3月21日に司祭に叙階されました。

私が神学校に入ったのは、1966年4月でしたから、すでに第二バチ



カン公会議は終わっていました。典礼改革は公会議の途中からはじめられ、ミサでは、ラテン語ではなく日本語が使われるようになり、司祭は後ろ向きではなく、会衆に向かって司式するようになっていました。しかし、公会議の日本語訳の文書が分冊で順番に発表されはじめたのは、1966年からでした。そのため、信徒だけでなく、司祭たちも、公会議で何が話され、今後、教会がどのような方向に歩んでいくのかも、十分に理解できない状況でした。

神学校の養成方針は、トレント公会議



の決定のままでした。学生を監督して、決まった司祭像にあてはめようとするものでした。神学の勉強も、トレント公会議で決められた教義を丸暗記するものでした。

昔使われていた「公教要理」でも、質問と答えが決まっていて、それを丸暗記するだけのものでした。聖書の箇所は、教義を正当化するために引用されるだけでした。当時、信徒がかってに聖書を読むことが禁止されていました。信徒は平信徒と呼ばれ、なにをするにも、いちいち司祭にお伺いをたてなければなりませんでした。

1970年になって、今まで神学生の養成を担当していたイエズス会の司祭に代わって、教区司祭が担うようになり、養成方針は、学生が自らの責任で学ぶように変更されました。

神学の勉強も、材料が提供され、それをどのように理解し、使うかは学生にまかされるようになりました。私は、提供される教材だけでは満足できず、カトリックにかぎらず、プロテスタントの聖書学者の本も読むようになりました。特に、「イエス伝」の研究に関するものを読みました。そのなかで、イエスの人となりを学ぶことができました。イエスが、特に、当時の社会の中で、罪人とみなされ、人間扱いされていない

人々と関わり、共に歩まれた姿に感銘を受けて、私もイエスと同じように生きたいと思うようになりました。

司祭になって大切にしてきたことは、自分の考えを押しつけるのではなく、共に学び、成長していくことでした。人と接する時も、司祭としてではなく、一人の人間として、関わるように努めてきました。

その点、司祭になって1年目から関わっているJOC（カトリック青年労働者連盟）では、青年たちと、人間同士の関わりができ、お互いに学び、成長していくことができました。青年の運動なので、たくさん青年たちが「働く人の家」に集まる時期もあれば、青年が一人もいなくて活動ができない時期もありました。

このように、今後も一人の人間として、みなさんと関わっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



感謝ミサのあと、大塚司教と

中学生会 春合宿報告

テーマ「はじめよう 今日だけかと」

3月25日～27日

西院教会にて中学生会春合宿を行いました。中学生10名が参加し、これまで何度か来てくれた人もいれば、初めて参加する人も。また、初参加のリーダーも加わり、中学生だけでなくリーダーにとっても新たな出会いの場となり、合宿全体を通して「新しいはじまり」となりました。

リーダーをはじめ、神父様とともに準備したたくさんプログラムの。すべてをお伝えしたい気持ちには山々ですが、今回はその一部をご紹介します。

新たな試みとして、「いいところを見つけてよう！」という企画を行いました。



ダー、神父様が3日間を通して感じた、その人のいいところや、してくれて嬉しかったことなどを手紙に書き、それぞれの名前が書かれた封筒に入れ合うというものです。普段はなかなか言葉にできない思いを伝え合い、自分自身の良さに気づききっかけにもなる、すごくいい取り組みだったと思います。

遠足では動物園へ行き、普段なかなか見られない動物たちにわくわくしながら、「フォトコンテスト」という企画も同時に行い、いろいろな動物と写真を撮りながら楽しみました。レクリエーションでは、リズムに合わせてお互いの名前を覚えていく「パラリコさん」や、ペアバスケット、おにごっこなどを行い、笑い合いながら盛り上がっていました。

分かち合いの時間では、テーマに合わせて自己紹介や思っていることを語り合いながら、お互いのことを深く知っていききました。プログラムを通じて打ち解けていく様子は、とても温かい気持ちになり、嬉しくもありました。

この春、そしてこれからも、きっといろいろな出会いや出来事があると思います。そんなとき、この合宿での出会いを



京都市動物園にて

思い出してほしいと思います。そして何かをはじめるとき、いつも私たちのそばにはイエスさまがおられること、またいつも誰かがそばにいて、一緒に歩んでくれていること、ひとりじゃないんだよ、ということ覚えていてほしいです。

最後に、今回の合宿を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2025年 中学生会春合宿
総括 寺田 英樹（伏見教会）

小学生侍者会「朗読と侍者Ⅱ」・召命祈願ミサ 報告

3月28日

新年度を目前に控えた3月28日、河原町教会において、今年度2回目の小学生侍者会を行いました。4年生4名、5年生5名、6年生5名の計14名が6小教区から集まり、小立花神父の指導の下、侍者の練習と詩編を歌う練習をし、午後から大塚司教司式の召命祈願ミサで奉仕しました。

神学生の司会によるオリエンテーションで楽しく自己紹介をした後、ヴィリオンホールで詩編の練習と侍者の練習、午後から聖堂でリハーサルを行いました。練習に十分な時間はとれませんでした。参加者は各々自分の役割を一生懸命練習して本番に備え、本番ではしっかり奉仕をすることができました。詩編は参加者全員で歌い、子どもたちの澄んだ歌声が聖堂に響きわたりました。



召命を祈るこのミサの中で、山田将太郎神学生の朗読奉仕者選任式が行われ、参加者の子どもたちにとっても、とても意義深く、たくさんのお恵みをいただきました。参加者の子どもたちが、所属教会で侍者奉仕に励み、信仰を深め、成長することを心から祈ります。

信仰教育委員会

2025年度 京都カトリック青年センター 運営委員紹介

2025年度の京都カトリック青年センター運営委員を紹介します。京都教区に携わる青年の中心となって青年活動の企画や運営、そのサポート等を行いたいと考えています。2025年度もどうぞよろしくお願いいたします。

栗井幹 (西院教会)

そろそろ中堅っぽくなってきましたが、初心を忘れず頑張りますので今後もよろしくお願いいたします！

橋本仁子 (河原町教会)

青年活動の中で、やりたいことを実行に移していける一年にしたいと思います！今年度もどうぞよろしくお願いいたします！

のん (河原町教会)

今年も運営委員をさせていただきます。たくさんの方々のサポートができるように頑張ろうと思います。青年達のためにお祈りをよろしくお願いいたします。

菊川ガブリエル (長浜教会)

初心者期間が終わり、これからは一運営委員として自覚し、それに伴い責任のある行動をとっていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

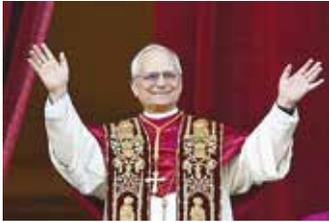
寺田英樹 (伏見教会)

今年度から運営委員に加わりました。祈りと交流を大切にしつつ、青年活動を一緒に盛り上げていけたら嬉しいです！ よろしくお祈りいたします！

池田瑠智亜 (唐崎教会)

事務員として青年活動をサポートすると同時に、自分自身も多くの青年とつながりを持つことができたら良いなと思っています！今年度もよろしくお願いいたします。

任期：2025年4月1日～2026年3月31日



新教皇レオ14世 誕生

5月8日、コンクラーベの4回目の投票で、アメリカ出身のロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿が、第267代教皇に選出されました。教皇の第一声は「あなたがたに平和があるように」でした。新しい教皇のために、私たちが心を合わせて祈りましょう。

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

広報委員会

教区時報お知らせ掲載情報は、原稿締切日までに発信者のお名前を明記の上、下記へお送りください。

8月号原稿締切日 6月23日㊥

教区本部広報委員会宛

メール/koho@kyoto.catholic.jp

F a x / 075(366)6679

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

日 時：6月8日㊥ 14:00 聖歌練習

6月15日㊥ 宮津教会堂巡礼

6月28日㊥ 17:30 練習と集会祭儀奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：則武 隆 075-951-4283

コーロ・チェルステ (女声コーラス)

練 習：6月12日㊥ 10:00 26日㊥ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ

黙想会・手話ミサ

日 時：6月17日㊥ 10:30 受付～15:00 解散予定

11:00 手話ミサ (柳本昭神父)

13:00 講話 (モンテロ G.ホルヘ神父)、黙想

場 所：桂教会

申込・問合せ：鎌田 修 090-1976-5636

kamadaosamu@gmail.com

心のともしび

<代表役員交代のお知らせ>

(宗)カトリック善き牧者の会心のともしび運動 YBU本部の代表役員は、5月1日付で阿南孝也が退任し、奥本裕が就任しました。

ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

6月のテーマ「小さな幸せ」「日常の幸せ」

K B S 京都 ㊥～㊤ 朝 5:55

⊕ 朝 5:15

ラジオ関西 ㊥～㊤ 朝 5:35(お詫び：4月より時間が変更されています)

㊥ 朝 6:05

毎日放送 ㊥～㊤ 朝 5:45

⊕ 朝 4:55



カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：6月8日㊥ 九条教会 9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

どなたでもご参加ください

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

司祭・司牧者の異動 (4月21日付)

京都北部ブロック 協力司祭

アベ (ペトルス・ファベル・パッティマンゴエ) 師
/レデプトール会

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。ご希望の方は、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271



第266代教皇フランシスコ

(ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ) 略歴

1936年12月17日、アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ。イエズス会出身。1969年司祭叙階。アルゼンチンで同会の管区長、神学院院长などを務めた後、1998年ブエノスアイレス大司教に。2001年ヨハネ・パウロ二世により枢機卿に叙任。2013年3月13日、第266代教皇に選出され、フランシスコを名乗る。初めてのラテンアメリカ出身の教皇。また、初めてのイエズス会員の教皇。2019年11月23日～26日、日本訪問。2025年4月21日、バチカンにて帰天。88歳。